

平成29年度 大田区立館山さざなみ学校 自己評価 報告書

平成29年8月31日

○ 本校の概要

本校は今年開校35周年となる。開校時の児童数は定員(120名)ほぼ一杯の119名だった。しかしその後児童数は減り続け、平成22年度以降の当初児童数は30名を下回っている。今年度も入21名校でスタートしている。本校は病弱の特別支援学校であり、喘息、肥満、虚弱、偏食等の児童が対象である。しかし現在在籍している児童は、それらの理由の他に不登校を経験している児童が半数以上いる。区内では登校できなかった児童も本校に入校した途端、普通に登校でき少数人数で学習するため休んでいた学習も取り戻すことができる。また3食栄養管理されている食事、規則正しい生活、1日90分の運動時間等により、着実に体力がつき健康な体になっていく。特別支援学校としての役割を果たしながら、本

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4: 年度末児童アンケートで「勉強ができるようになった」の項目で肯定的評価が90%以上	3	算数では昨年度より「東京ベーシックドリル」を活用し、年間7回の学習診断を行っている。これによって児童のつまづきを確認し、学習指導に生かしている。また寄宿舎の学習時間に宿題以外に行うステップ学習でも繰り返し練習して積み重ね、基礎的基本的な学力の向上を図っている。来年度も継続して取り組む。少人数指導の利点を生かし、児童が積極的に学習に取り組み、それを互いに認め合える学習指導を行っている。	不登校など学習空白期間があり、基礎学力の劣る子どもに対して年7回の学習診断を行うことは、自分の理解度が数字でわかることにより、励みにもなる。合格率が目標に到達してはいるが、学習に前向きに取り組んでいく大きなきっかけになっている素晴らしい取組と考える。子どもに自信をもつことが自立への第一歩である。学力向上に向けての取組は課題であるが、児童自身の肯定的評価が向上しているのは素晴らしい
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 年度末児童アンケートで「勉強ができるようになった」の項目で肯定的評価が80%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 年度末児童アンケートで「勉強ができるようになった」の項目で肯定的評価が70%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1: 年度末児童アンケートで「勉強ができるようになった」の項目で肯定的評価が70%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	東京ベーシックドリルの合格を目指して、基礎基本の学習指導の充実を図る。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が90%以上	3	毎日朝と夕方に学校と寄宿舎の引き継ぎを行い、体調の良くなかったり、トラブルがあったりした児童の様子を知らせて情報を常に共有している。特に時間をかけて話し合う必要がある児童については定期的なケース会議を行い、児童理解に努めている。	コミュニケーション能力が乏しい子どもが増えており、人間関係づくりができずトラブルを起こしやすい現状がある中で、ソーシャルトレーニング等でセルフコントロールの力を身に付けていくなどの取組はとても重要と考える。さまざまな体験活動を通して一人一人の子どもが自分のよさを見出し、称賛することで自己肯定感が高まるものと考えている。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が80%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルステック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が70%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が70%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		ソーシャルスキルトレーニングやアンガーマネジメントを実施し、児童に社会性を身に付けさせていく				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が95%以上	4	「規則正しい生活、毎日の運動、バランスのとれた食事」によって健康課題克服と体力向上を図っている。	生涯にわたり健康な生活を送るために、食についての知識や実践的な態度を身に付けさせることはとても重要と考える。また体力面では持久走の記録の伸びが子どものやる気につながっていると思う。一人一人に応じた食事指導等適切な食育が行われ、肥満解消が着実に進んでいる。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が90%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が80%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が80%未満			
		年3回の持久走大会では、都度記録を更新することを目指して体力の向上を図る。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が95%以上	4	今年度は校内研究主題を「人間関係を深め合う児童の育成」として話し合う活動を通して研究をすすめてきた。全教員が研究授業を行い、区内校の校長や教育アドバイザーに講師を依頼して若手教員の授業力向上も図ってきた。	発達障害の傾向をもつ子どもがトラブルを起こし、いじめに発展するなど大きな問題となっている。発達障害に対する理解、傾向をもつ子どもへの具体的な対応など、職員が研修を通して意識を高めておくことの必要性を感じる。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が90%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が80%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1: 年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が80%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
		情緒障害や発達障害について教職員の理解を深めるための特別支援教育研修に参加し、児童の指導に生かす。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりだす。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 年度末保護者アンケートの「区内ではできない体験がたくさんできた」の項目で肯定的評価が95%以上	4	児童に区内では経験のできない自然を生かした体験を数多くさせるために、近隣の学校や農家の方の協力を得て活動を行った。また寄宿舎でも落花生や小麦、じゃがいもなどを栽培し、菓子やうどんを作った。	5年生の合同宿泊学習は地元の小学校の子どもたちにとっても非常に価値ある活動、学習と評価している。今後も継続して進めていけると思う。教育活動をHP等で示すことは理解してもらいだけでなく、協力的と感じている。「家庭の教育力向上」という項目であれば「帰省期間や長期休業中のお子さんの様子」を成果指標にすべきではないか。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の愛着等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	3: 年度末保護者アンケートの「区内ではできない体験がたくさんできた」の項目で肯定的評価が90%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 年度末保護者アンケートの「区内ではできない体験がたくさんできた」の項目で肯定的評価が80%以上			
		自然を生かした体験的な活動を数多く経験させるために、地域人材や環境を活用し、さざなみ学校ならではの授業や取組を行う。	1: 年度末保護者アンケートの「区内ではできない体験がたくさんできた」の項目で肯定的評価が80%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。